

事業所名		わんぱくクラブ駒沢		支援プログラム		作成日	令和6	年	10	月	16	日
法人（事業所） 理念		ひとりひとりを大切に、決めつけないこと、共感すること、真剣に向き合うことを基本とし、以下の4つの視点で、事業を行います。 ● 仲間をつくる 子どもたちは、仲間を意識すること、集団の中で自分の役割を見出すこと、仲間とかかわりながら様々な体験をすることで、社会性を身につけていきます。わんぱくで、たくさんの信頼できる仲間、安心できる場所に出会うことで、誰もが自分自身の生活の主人公になれると考えています。 ● 遊びで育つ 子どもの内にあるやってみたい気持ちを丁寧に拾い、実現できるように道を作り、新しい遊びの種を育てます。このプロセスを通して、自分で考える、自分で決める、という大切な力を身につけて行きます。遊びは子ども達の成長を支える大切な時間です。わんぱくでたっぷり遊ぶ時間を持って幸せな子ども時代を過ごし、それが人生を通して豊かに生きることにつながることを願っています。 ● 豊かに生きる 成人の余暇活動、生活支援、相談支援で、「遊び」「仲間」を通して育まれた力で、豊かな生活を実現します。 ● 地域をつくる 私たちは、利用者だけでなく、スタッフ、保護者、かかわる人たちすべてが仲間となって、地域に仲間の輪を広げていくこと、そして、誰もが生き生きと笑顔で生活できる地域（社会、まち）を創ることを目指します。										
支援方針		・学校でも家庭でもない第3の場所として、子ども達が放課後の時間などに、やりたいことをのびのびとできる環境をつくります。 ・遊びを通して、体を動かしたり、周りの子どもと関わったりすることで、心身ともに刺激をたくさん受けて、成長できるようにします。 ・表面的な「できる・できない」の成果に囚われず、心の内面でどのような揺れ動きがあり、その子の言動に繋がっているのか探りながら、接します。 ・最長12年通える環境で、子ども達の発達、行きつ戻りつすることを余裕をもって受け止めながら、長い目で育ちを見ていきます。 ・様々な年齢の仲間がいる集団で他者との関係の中で自分の存在や役割を認識していけるよう、子ども同士が関わって過ごすことを大事にします。										
営業時間		平日 14:00～18:00 月～金 12:00～18:00（学校短縮授業日） 学校 9:30～16:00 休業日 土曜 10:00～15:00（学期に1回）	送迎実施の有無		あり	利用人数に対する車両運行の確保が困難なため、通学人数の多い特別支援学校のみ、送迎を行っています。 活動後の自宅への送迎は、週2回のみ、調整の上、運行しています(R6年度)。						
本人支援	【5領域】	【支援内容】										
	健康・生活	日々の生活の中で、「自分のことは自分でする」という精神が育まれるような支援を心がけています。身支度、おやつを袋を開ける動作など、あらゆる場面で、他者に手伝ってもらわばかりでなく、自分でやりたいという意欲や、自分でやってきたという達成感を感じられることが、これから長い人生を自ら切り拓いていくという点において、とても大事です。個々の発達の状態に応じて、支援内容を柔軟に変えています。 また、子どもの表情や行動、学校からの引継ぎ内容などから、その日の状態を多角的に捉え、より安全で安定した生活を過ごせるよう配慮します。										
	運動・感覚	自由遊びの時間に、部屋では追いかけて遊びやトランポリン、マット遊びなど、園庭では大縄跳びやソリ遊びなど、体を大きく動かして遊べるよう、環境を設定しています。体を動かすことが苦手な子や、身体的介助が必要な子にも積極的に誘いかけ、必要な援助を行っています。 スタッフも思い切り遊びに身を置くことで、子ども達との信頼関係を深めています。 感覚遊びとして、水遊びや砂遊びなど、自然物に触れる遊びをしたり、スライムづくり、制作など手先を使った活動を設けたりしています。										
	認知・行動	視覚的情報での理解が高い子には、文字やジェスチャー、実際に関わる物等を用いて、情報を伝えています。アナログ時計を掲示し、「長い針が○になったらおしまい」など、時間感覚を掴めるよう支援しています。 また、連続した動作を説明する際、「カバンを開ける」「連絡帳を出す」「シールを貼る」など、工程を分解し、1度に伝える情報量を調節することで、段階的に理解できるように留意します。班活動や帰りの会、さよならの挨拶などで、皆の注目を浴びて、挨拶や合図を自ら発信する場をつくっています。 集団遊びでルールのあるゲームを設定し、順番を理解したり、状況を判断したりできる機会をつくっています。誰もが参加しやすい形を工夫することで、皆で一緒に楽しむ一体感を感じられるようにしています。										
	言語・コミュニケーション	言葉や、非言語的コミュニケーションの双方から、子ども達の思いを汲み取る支援を大切にします。言葉の裏にどのような気持ちがあるか捉え、共感的姿勢で接し、受け止められたことが分かるよう、スタッフは言葉での表現を丁寧にを行います。子どもがスタッフや他の子に要求・意思を表出する際、一方的にならず、やり取りが行われることを大事にします。 班活動では、班長が合図することで活動が進行します。その他の役割については、言葉や拳手などで立候補することで、意思を示せるようにしています。										
	人間関係・社会性	自由遊びでは、子ども同士が関わって過ごす機会を大事にしています。自発的な関わりを見守ると同時に、遊びの中で子ども同士を意図的に結びつける働きかけを積極的に行っています。時には遊具の取り合いなど思いがぶつかることもあります。自分の意見をきちんと伝えたり、相手を思いやって譲ったりする、実りのある経験となるように、必要な援助をしています。 集団遊びでは、ゲームやダンスなど、同じ活動を皆で一緒に楽しむことに主眼を置いています。時には、順番を守って参加する機会を作っています。おやつを中心とした班活動では役割を設け、責任感をもったり、活躍を認められたりする場であることを大事にしています。										
家族支援		・夏休みの保育中、「1日保育スタッフ」と称し、保護者が保育に参加し、体験できる機会を設けています。 ・保護者会を通して、事業所の保育内容について理解を深めたり、事業所職員や他の保護者と交流したりしています。 ・法人が中心となり、保護者向けの学習会を年に数回開催しているため、周知をしています。			行事		・ハロウィン、クリスマス、節分などの季節行事や、年度末のさよならパーティーなどを催しています。 ・楽器を使った音楽遊びや、個別の誕生会なども行っています。皆の前に出て活動に取り組むことで、注目を浴びることへの意識が上がり、時には緊張したり、活躍することを楽しんだりできるようにしています。					
地域支援・地域連携		・地域の自然体験教室プログラムに参加し、毎年、さつまいも掘りや、小松菜採りに出かけています。 ・放課後連・東京に加盟し、毎月の定例会や年数回の学習会に参加しています。制度や情勢、放課後保育の意義について、など情報共有をしています。 ・世田谷区玉川エリア自立支援協議会の委員となり、情報共有をしています。			職員の質の向上		・毎日、保育後に振り返りミーティングを行い、子どもの様子や活動の課題、ヒヤリハットなどをスタッフ全体で共有する機会を大事にしています。個別のケースを取り上げて、理解を深めることもあります。 ・外部の講習会や研修会を案内しています。正職員は、権利擁護研修や強度行動障害支援者養成研修なども受講しています。					